

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：34316

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320145

研究課題名(和文) ガーンディーからアンベードカルへ 多元的共生社会の創成

研究課題名(英文) From Gandhi to Ambedkar: In Search of Equality in a Society of Diversity

研究代表者

長崎 暢子 (Nagasaki, Nobuko)

龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー

研究者番号：70012979

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ガーンディーとガーンディー主義、アンベードカルと不可蝕民の運動、インド政治史の研究者が協力して、従来対立的に捉えられてきたガーンディーとアンベードカル思想と運動を、より広い文脈において捉える試みである。両者には、非暴力的運動という方法や、差別の解消という目的だけでなく、「真の平等」を求める点でも共通点があった。歴史的には、ガーンディーが国際的差別解消としてのインド独立を実現したのに対し、アンベードカルは、ガーンディーの解決できなかった国内的差別解消としてのカースト制度の廃絶を目指し、自ら仏教に改宗することによって、ヒンドゥーイズムを超える、多様で平等な社会への道筋を示そうとした。

研究成果の概要(英文)：This study attempted to establish a historical context in which modern Indian political thought and political and social movements took place under the leadership of Gandhi and Ambedkar. The hypothesis that emerged from those scholars who joined this study, ranging from Gandhian scholars to researchers of the Dalit Movements, is that both men sought a society, which would be equal in substance, while accommodating the diversity of language, ethnicity and especially religion. While Gandhi achieved the elimination of international discrimination through independence to a large extent, Ambedkar tried to eliminate domestic discrimination through the abolition of the caste system. He attempted to show the way to an equal society, which would go beyond the Hinduism which underpinned the caste system, through his own conversion to Buddhism.

研究分野：人文学

キーワード：ガーンディー アンベードカル 多元的共生 インド民族運動 格差

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来の研究では、英帝国の植民地支配と闘い、インド独立を勝ち取るに至らしめたガンディー(1869-1948)、国民会議(派)を中心とした民族独立運動と、インド人社会の上層支配に対する下層民からの新たな闘い、すなわち不可触民の指導者アンベードカル(1891-1956)に率いられた不可触民の運動 dalit movement とは、別個に論じられることが多かった。ガンディー、アンベードカルのそれぞれについては既に多くの研究がある。ガンディー研究に関しては、日本でも、本研究代表者長崎をはじめとして、すでにならぬ研究蓄積がある。しかし、彼らに関係づけた研究については、とくにインドのそれは、ダリットの側からの研究は多いが、双方向からの研究は非常に少ない。

(2) 両者の運動の関係の重要性は、(a)植民地からの独立(ガンディー)と、(b)インド社会の変革(アンベードカルによる被差別民の自立)とが同時並行的に試みられていたことにある。いずれもインドのみならず、世界的にも重要な課題を解決しようとしたものであった。加えてガンディーの場合は、(c)非暴力的な大衆運動を繰り返すという驚異的な運動方法を編み出し、後世の社会運動に影響を与えた。

(3) 人間文化研究機構「現代インド拠点形成プロジェクト」の支援のもとに、2009年の準備年以来、現代インド仏教徒(元不可触民)研究のための研究拠点が龍谷大学、および、インドのナーグプルに設置された。同大学では、2009年からナーグプルを拠点とする現代仏教徒に関する研究・現地調査が集中的に始まっている。アンベードカル研究を含め、龍谷大学における現代仏教徒に関する研究資源・蓄積を活用することができる。

2. 研究の目的

本研究は、二人の指導者に率いられた闘いの流れを比較し、運動によって起こる社会・思想の変化、そして相互影響による闘いの深化、社会変化を追うことによって、それぞれの闘いの発端、闘いの目標、闘いの思想と構造、さらに2つの闘いの対立・協力関係などを多面的に明らかにする。当然、二人の指導者、ガンディーとアンベードカルの関係についても検討することになる。

と同時に、これらの研究によって、社会の変革を求める政治文化としての「民主主義」に注目し、「停滞のインド」から「成長のインド」へと変貌した現代インドの社会的・思想的源流を複眼的に探りたい。

3. 研究の方法

長崎、石坂がガンディー研究およびガンディー主義研究の立場から、篠田、粟屋がアンベードカル研究の立場から、上田がインド政治史の立場から、本テーマの歴史的研究に従事する。さらに、7名の研究協力者にも加わっていただき、研究会や国際シンポジウムで議論を深めることにより、インド近代史の新たな側面を切り拓こうとするものである。

4. 研究成果

(1) 長崎は、5の図書に刊行した2本の論文において、「差別解消の方法とヴィジョン」におけるガンディーとアンベードカルの思想と運動の対立点と共通点を論じ、国際的差別解消(独立)と国内的差別解消(カースト制度の廃絶)という目的の違いにもかかわらず、基本的に非暴力的大衆運動という方法が継承されたこと、真の平等を求める思想にも共通点があったとした。また、では、両大戦間期以降のインドに「多様性尊重型民主主義」とも言うべき政治文化が根付き、独立後の政治風土の基礎の一つとなったとした。この論文でも取り上げている近代インドの政治思想史については、上田が著書24を刊行し、ガンディーの先駆者の側面を持つゴーカーレーの思想を解明した。

(2) 篠田は、大著にも生かされている現地調査を長年にわたって続けており、本研究との関連ではアンベードカルの1920年代における活動の分析や、「ガンディーとアンベードカルの労働観」について報告し、研究水準を大きく高めた。粟屋も、アンベードカル研究を進めつつ、「生存とジェンダー」というより大きなテーマに接近しようとした。

2年度からメンバーに加わった舟橋は、現代の「改宗仏教徒」の調査から、仏教徒ダリット・コミュニティのインド社会における位置を論じて、アンベードカルが活躍した時代との大きな変化をわれわれに想起させた。これに対し、石坂は環境運動におけるガンディー主義の継承や独立後のガンディー主義経済学について報告し、両者の思想と運動の継承関係を探った。さらに、研究協力者からもガンディーの経済思想(石井)について報告を受けた。

(3) 本研究と並行して行われた人間文化研究機構(NIHU)の現代インド地域研究プロジェクトとの連携し、多くのインド人、外国人研究者と接触することによって、「ガンディーからアンベードカルへ」という大きな流れを近現代インド史の基本線の一つとして考えるべきことがさまざまなかたちで明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10 件)

篠田隆、「日帰り放牧の家畜構成と資源利用：インド・グジャラート州の事例を中心に」、『大東文化大学紀要(社会科学)』、査読無、第 53 号、2015、249-271。

上田知亮、「東部・北東部の州政治からみるモーデー政権の行方」、『現代インド・フォーラム』、査読無、24 巻、2015、22-30。

篠田隆、「戦前の馬産地における農業経営と馬飼養：北海道浦幌村の事例を中心に」、『大東文化大学紀要(社会科学)』、査読無、第 52 号、2014、213-240。

Shinoda, Takashi, "Nomadic Cattle Herders and Customary Rights for Grazing in North Gujarat, India", *ANVESAK*, 査読有, 43(1), 2013, 1-19.

Shinya Ishizaka, "A Revival of Gandhism in India?: Lage Raho Munna Bhai and Anna Hazare", *INDAS Working Papers*, 査読無, No. 12, 2013, 1-13.

篠田隆、「インド・グジャラート農村における農業経営と作物構成—調査村の事例を中心として—」、『大東文化大学紀要(社会科学)』、査読無、第 51 号、2013、61-89。

石坂晋哉、「インドの環境運動—チブコ—運動再考」、『現代インド・フォーラム』、査読無、第 16 号(2013 年冬季号)、2013、21-28。

Shinya Ishizaka, "Re-evaluating the Chipko (Forest Protection) Movement in India", *The South Asianist: Journal of South Asian Studies*, 査読無, Vol. 2, No.1, 2013, 3-8.

Shinya Ishizaka and Kenta Funahashi, "Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia", *The South Asianist: Journal of South Asian Studies*, 査読無, Vol. 2, No. 1, 2013, 9-27.

上田知亮、「西ベンガル州政府とゴルカ人民解放戦線の対立が深刻化」ほか、25 件、『インド経済フォーラム』(インド経済研究所)、査読無、2012-2013。

[学会発表](計 39 件)

長崎暢子、「ガーンディーとアンベードカル」、2014 年度 RINDAS 全体研究会「第一期総括ならびに第二期に向けて」、龍谷大学大宮キャンパス(京都府京都市)、2015 年 2 月 22 日。

石坂晋哉、「インド森林の管理・利用をめぐる政治過程」、KINDAS 研究グループ 1 研究会、京都大学(京都府京都市)、2015 年 1 月 25 日。

Toshie Awaya, "Indian Intellectuals' Perceptions on Japanese Occupation of Korea", Shiv Nadar University (SNU) and

Contemporary India Area Studies (INDAS) Conference 'Perspectives, Dialogues and Challenges India, Japan and the Making of Modern Asia', India Habitat Centre, New Delhi, India, 15th December 2014.

Shinya Ishizaka, "Chipko (Forest Protection) Movement in Uttarakhand History", Shiv Nadar University (SNU) and Contemporary India Area Studies (INDAS) Conference "Perspectives, Dialogues and Challenges: India, Japan and the Making of Modern Asia", India Habitat Centre, New Delhi, India, 15th December 2014.

Kenta Funahashi, "Continuity or Discontinuity: Negotiating Identities in a Case of 'Converted-Buddhists' in Uttar Pradesh", Shiv Nadar University (SNU) and Contemporary India Area Studies (INDAS) Conference, 'Perspectives, Dialogues and Challenges: India, Japan and the Making of Modern Asia', India Habitat Centre, New Delhi, India, 15th December 2014.

粟屋利江、「イギリスのインド支配を再考する」東北亞歴史財団国際学術会議「植民地責任の清算の世界的動向と課題」、ソウル(韓国)、2014 年 11 月 28 日。

石坂晋哉、「環境、開発、生存基盤—インドにおける森林管理・利用と森林保護運動」、第 87 回日本社会学会大会、神戸大学(兵庫県神戸市)、2014 年 11 月 22 日。

舟橋健太、「現代インドにおける仏教改宗運動と『社会性』—『エンゲイジド・ブディズム』の観点から」、第 87 回日本社会学会大会、テーマセッション「南アジアの社会運動—グローバルな価値観と草の根の力の接合点」、神戸大学(兵庫県神戸市)、2014 年 11 月 22 日。

上田知亮、「第一次世界大戦と英印関係—植民地ナショナリストからみた帝国秩序」、日本国際政治学会、福岡国際会議場(福岡市博多区)、2014 年 11 月 14 日。

粟屋利江、「グローバル化する世界の中のインド—モーデー新政権の行方」(企画・趣旨説明)、日本南アジア学会(JASAS)市民講座、東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)、2014 年 10 月 11 日。

長崎暢子、「南アジア近現代史に学ぶ：—女性研究者の歩み」、第 47 回南アジア研究集会「ジェンダー・シンポジウム」、ウィルあいち(愛知県女性総合センター、愛知県名古屋市)、2014 年 7 月 27 日。

舟橋健太、「ウツタル・プラデーシュ州における仏教徒ダリトの宗教実践」、2014 年度 BARC・RINDAS 共催ワークショップ「南アジアの仏教徒—アイデンティティと越境」、龍谷大学(京都府京都市)、2014 年 7 月 12 日。

- Nobuko Nagasaki, "Discussant: for the presentation by Ruby Lal (Emory University)", 2014 年度第 1 回国際セミナー "History, Historiography and the Archive: Feminist and Subaltern Landscapes", 龍谷大学大宮学舎(京都府京都市), 2014 年 5 月 21 日。
- 石坂晋哉, 「インド社会運動の捉え方—ポストコロニアルの視点から」, 2013 年度現代インド・南アジア次世代研究者合宿、飛鳥の宿・祝戸荘(奈良県高市郡明日香村) 2014 年 3 月 1 日。
- 石坂晋哉, 「環境主義者とエネルギー問題」, 「インドの大国化戦略」研究会、専修大学(東京都千代田区) 2014 年 2 月 4 日。
- 石坂晋哉, 「書評: 白田雅之『近代ベンガルにおけるナショナリズムと聖性』(東海大学出版会、2013 年)」, KINDAS 研究グループ 1 研究会、京都大学(京都府京都市) 2014 年 2 月 1 日。
- 石坂晋哉, 「インドにおけるガンディー主義の展開」, 第 66 回マハトマ・ガンディー殉難日の集い、招待講演、日印サルボダヤ交友会講堂(東京都千代田区) 2014 年 1 月 30 日。
- 長崎暢子, 「アンベードカルから見るガンディー」, 基盤研究 B 「ガンディーからアンベードカルへ - 多元的共生社会の創成」第 3 回研究会、龍谷大学(京都府京都市) 2013 年 12 月 21 日。
- Nobuko Nagasaki, "Introduction to Session 2", INDAS International Conference 2013 "In Search of Well-being: Genealogies of Religion and Politics in India", Ryukoku University, Kyoto, 15th December 2013.
- Nobuko Nagasaki, "From Gandhi to Ambedkar", RINDAS seminar on Issues in Twentieth Century Indian History: Dynamics of Economics and Politics", Ryukoku University, Kyoto, 29th November 2013.
- 21 Shinya Ishizaka, "Re-inventing a Traditional Method of Nonviolent Action: Fasts in Indian Social Movements", International Convention of Asia Scholars 8, The Venetian Macao Resort Hotel, Macao, China, 25th June 2013.
- 22 石坂晋哉, 「J. C. クマーラッパーのガンディー主義的環境主義」, 「ガンディーからアンベードカルへ」研究会、龍谷大学(京都府京都市) 2013 年 5 月 18 日。
- 23 石坂晋哉, 「インド農村社会の変化—Behind Mud Walls をめぐって」, 2012 年度 INDAS 次世代研究者合宿、箱根高原ホテル(神奈川県) 2013 年 3 月 1 日。
- 24 長崎暢子, 「ヒンドゥー教、イスラーム教、そして仏教 - 荒松雄博士によるインドの宗教多様性研究」, イスラーム地域研究・現代インド地域研究 連携事業研究会「イスラームとインドの多様性」, 龍谷大学大宮学舎(京都府京都市) 2013 年 2 月 8 日。
- 25 長崎暢子, 「現代インドと私たち—停滞のインドから、シャイニング・インディアへ」国際コミュニケーション学部主催講演会、大阪国際大学守口キャンパス(大阪府守口市) 2012 年 12 月 13 日。
- 26 長崎暢子, 「M.K. ガンディーと B.R. アンベードカル - 対立点と共通点」学会名: 長崎科研基盤研究 B 「ガンディーからアンベードカルへ—多元的共生社会の創成」研究会、龍谷大学大宮学舎(京都府京都市) 2012 年 12 月 2 日。
- 27 石坂晋哉, 「インド社会運動論—チブコー運動再考」, 2012 年度 NIHU 研究員研究会、京都大学(京都府京都市) 2012 年 12 月 2 日。
- 28 上田知亮, 「現代インドの州政治と連立政権: 中央 - 州関係の変容」人間文化研究機構現代インド地域研究事業 2012 年度国内全体集会、京都大学(京都府京都市) 2012 年 11 月 24 日。
- 29 長崎暢子, 「国家間の格差解消から、社会における格差解消へ—ガンディーとアンベードカル」, NIHU プログラム『現代インド地域研究』2012 年度国内全体集会「現代インドにおける社会変動とデモクラシー—格差と参加のダイナミズム」, 京都大学稲盛財団記念館(京都府京都市) 2012 年 11 月 23 日。
- 30 石坂晋哉, 「現代インドの環境と社会運動—チブコー運動をいかに捉えるか」, 2012 年度 INDAS 国内全体集会、京都大学(京都府京都市) 2012 年 11 月 23 日。
- 31 Shinya Ishizaka, "Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia", Japan-Edinburgh Workshop 'Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia', University of Edinburgh, Edinburgh, U.K., 17th October 2012.
- 32 Shinya Ishizaka, "Re-evaluating the Chipko (Forest Protection) Movement in India", Japan-Edinburgh Workshop on 'Social Movements and the Subaltern in Postcolonial South Asia', University of Edinburgh, Edinburgh, U.K., 17th October 2012.
- 33 篠田隆, 「インドにおける食料消費の動向と地域性」, 日本南アジア学会第 25 回全国大会、東京外国語大学府中キャンパス(東京都府中市) 2012 年 10 月 6 日。
- 34 長崎暢子, 「ガンディーからアンベードカルへ: その合意と対立」, 第 3 回現代インド社会研究会、龍谷大学大宮学舎(京都府京都市) 2012 年 9 月 24 日。
- 35 Nobuko Nagasaki, "The Commitment to

Peace: A Shared Sense of Directions in the Early Phase of Indo-Japanese Relations”, International Workshop on “Discussing Contemporary India: Politics and International Relations from Asian and Global Perspectives”, Inamori Foundation Memorial Building, Kyoto University, Kyoto, 1st July 2012.

- 36 Shinya Ishizaka, “Social Movements and the Transformation of Forest Management in the Uttarakhand”, KINDAS & RINDAS International Workshop ‘Discussing Contemporary India: Politics and International Relations from Asian and Global Perspectives’, Kyoto University, Kyoto, 29th June 2012.
- 37 石坂晋哉, 「ガンディーとアンベードカルの相補性?—D. R. Nagaraj の見解をめぐって」, 「ガンディーからアンベードカルへ」研究会、龍谷大学(京都府京都市) 2012年6月9日。
- 38 石坂晋哉, 「フィールドワークと成果公開の問題」, GLOCOL セミナー、大阪大学(大阪府豊中市) 2012年6月6日。
- 39 石坂晋哉, 「インド社会運動研究の問題点と課題—サバルタン論的分析をめぐって」, 第5回インド社会運動研究会、京都大学(京都府京都市) 2012年5月27日。

〔図書〕(計27件)

長崎暢子・堀本武功・近藤則夫編、東京大学出版会、『現代インド3 深化するデモクラシー』、2015、356。

長崎暢子・堀本武功・近藤則夫編、東京大学出版会、「インド型民主主義の可能性」長崎暢子・堀本武功・近藤則夫編、『現代インド3 深化するデモクラシー』、2015、356(3-24)。

長崎暢子、東京大学出版会、「近代政治思想の形成と展開」, 長崎暢子・堀本武功・近藤則夫編、『現代インド3 深化するデモクラシー』、2015、356(107-132)。

長崎暢子、東京大学出版会、「差別解消の方法とヴィジヨン—ガンディーとアンベードカル」, 田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『現代インド1 多様性社会の挑戦』、2015、392(223-250)。

篠田隆、日本評論社、『インド農村の家畜経済長期変動分析：グジャラート州調査村の家畜飼養と農業経営』、2015、416。

粟屋利江、東京大学出版会、「生存とジェンダー：「家族」をめぐる言説と実践から」, 杉原薫・脇村孝平・田辺明生編『シリーズ現代インド1 多様性社会の挑戦』、2015、392(111-137)。

粟屋利江・井上貴子・井坂理穂編、東京大学出版会、『シリーズ現代インド5 周縁からの声』、2015、330。

粟屋利江、東京大学出版会、「『公共圏』

論再考」, 粟屋利江・井上貴子・井坂理穂編『シリーズ現代インド5 周縁からの声』、2015、330(3-22)。

粟屋利江、東京大学出版会、「フェミニズムとカーストとの不幸な関係?—ダリト・フェミニズムからの提起」, 粟屋利江・井上貴子・井坂理穂編『シリーズ現代インド5 周縁からの声』、2015、330(177-198)。

中溝和弥・石坂晋哉、東京大学出版会、「民主政治と社会運動—制度と運動のダイナミズム」, 田辺明生・杉原薫・脇村孝平編『多様性社会の挑戦』シリーズ現代インド1 2015、392(305-332)。

上田知亮、東京大学出版会、「中央—州関係—州政治の脱中心化と連立政治の不安定化」, 長崎暢子・堀本武功・近藤則夫編『現代インド3 深化するデモクラシー』、2015、356(77-100)。

舟橋健太、ミネルヴァ書房、「インド仏教」, 櫻井義秀・平藤喜久子(編著)『よくわかる宗教学』(やわらかアカデミズム わかる シリーズ) 2015、216(86-87)。

舟橋健太、昭和堂、「過去を同定する—ダリト運動における歴史」, 石坂晋哉(編)『インドの社会運動と民主主義—変革を求める人びと』、2015、221(141-161)。

舟橋健太、東京大学出版会、「現代ダリト運動の射程—「エリート」の台頭と意義」, 粟屋利江・井坂理穂・井上貴子(編)『現代インド5 周縁からの声』、2015、330(25-45)。

舟橋健太、北海道大学出版会、「近現代インドの仏教に見る「社会性」—B・R・アンベードカルの仏教解釈から現代インドの仏教改宗運動まで」, 櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武(編著)『アジアの社会参加仏教—政教関係の視座から』(現代宗教文化研究叢書5) 2015、390(337-361)。

長崎暢子、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、「荒松雄先生による「現代インド地域研究」への貢献について」長崎暢子・深見奈緒子編『イスラームとインドの多様性』(NIHU Research Series of South Asia and Islam 4) 2014、74(1-6)。

長崎暢子・深見奈緒子編、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター、『イスラームとインドの多様性』(NIHU Research Series of South Asia and Islam 4) 2014、74。

Toshie Awaya, “Successor State: Travancore”, “The Decline of the Matrilineal System in Modern Kerala”, in Noboru Karashima (eds), *A Concise History of South India: Issues and Interpretations*, New Delhi: Oxford University Press, 2014,

396 (249-51, 293-5).

粟屋利江、(分担執筆) 大月書店、「ヒンドゥー教の世界とカースト秩序」、「インド中世・近世社会の諸相」、「近代インドにおける社会改革と民族運動」、「インド独立と女性」、「『伝統文化』の表象としてのサティ(寡婦殉死)」、三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える—ジェンダーから見た世界史』、2014、314 (52-3, 122-3, 214-5, 226-7, 258-9)。

石坂晋哉(編) 昭和堂、『インドの社会運動と民主主義—変革を求める人びと』、2014、221。

- 21 Taberez Ahmed Neyazi, Akio Tanabe and Shinya Ishizaka (eds), *Democratic Transformation and the Vernacular Public Arena in India*, Routledge, 2014, 221.
- 22 石坂晋哉、海青社、「開発と社会運動」、岡橋秀典編『現代インドにおける地方の発展—ウッタラーカンド州の挑戦』、2014、279 (229-247)。
- 23 上田知亮、ミネルヴァ書房、『植民地インドのナショナリズムとイギリス帝国観—ガンディー以前の自治構想』、2014、304。
- 24 長崎暢子、ミネルヴァ書房、『『アジア主義』とインド—ガンディーは日本をどう見たか』、松浦正孝編著『アジア主義は何を語るのか：記憶・権力・価値』、2013、677 (384-408)。
- 25 石坂晋哉、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター・同附属現代インド研究センター、「『宗教』復興としての環境主義—J.C. クマーラッパーのガンディー主義的経済学』、小杉泰編『環インド洋地域における宗教復興・テクノロジー・生命倫理』、2013、250 (89-97)。
- 26 東長靖、石坂晋哉編、京都大学学術出版会、『持続型生存基盤論ハンドブック(講座 生存基盤論 第6巻)』、2012、552。
- 27 上田知亮、京都大学学術出版会、「政治学」他全 24 項目、東長靖・石坂晋哉編『持続型生存基盤論ハンドブック(講座 生存基盤論 第6巻)』、2012、552 (延べ30頁)。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

長崎 暢子 (NAGASAKI Nobuko)
龍谷大学・人間・科学・宗教総合研究センター・研究フェロー
研究者番号：70012979

(2)研究分担者

篠田 隆 (SHINODA Takashi)
大東文化大学・国際関係学部・教授
研究者番号：20187371

粟屋 利江 (AWAYA Toshie)
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授
研究者番号：00201905

石坂 晋哉 (ISHIZAKA Shinya)
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・客員准教授
研究者番号：20525068

上田 知亮 (UEDA Tomoaki)
国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員
研究者番号：20402943

舟橋 健太 (FUNAHASHI Kenta)
龍谷大学・現代インド研究センター・客員研究員
研究者番号：90510488

(3)連携研究者

()

研究者番号：